

資料 1 - 1 令和7年度実施結果及び令和8年度実施計画

保護増殖事業計画 (H13. 11. 30) ロードマップ (R4. 4. 1)	令和7年度 実施計画	令和7年度 実施結果	令和8年度 実施計画 (案) (※前年度からの変更事項を赤字で記載)
<p>第1 事業の目標</p> <p>ウミガラスは、北半球寒冷海域に分布し、北海道沖合島嶼を繁殖地南限とするウミスズメ科の海鳥である。本種は、島嶼の断崖にある岩棚などで集団繁殖するが、近年生息環境等の悪化により、我が国における生息個体数が急激に減少している状況にある。</p> <p>本事業は、本種の生息状況等の把握とモニタリングを行い、その結果等を踏まえ、本種の生息に必要な環境の維持・改善及び生息を圧迫する要因の軽減・除去等を図ることにより、本種が自然状態で安定的に存続できる状態になることを目標とする。</p>			
<p>第2 事業の区域</p> <p>主として北海道沿岸(天売島等)における本種の分布域</p>			
<p>(1) 生息状況等の把握</p> <ul style="list-style-type: none"> ウミガラスの分布域において、繁殖期及び非繁殖期に陸域や海上からの観察等により、飛来状況や繁殖状況等の生息状況の動向を継続的に把握する。また、生息情報の収集、整備に努める。 標識の装着による個体識別、ラジオトラッキングやデータロガーによる行動解析等の手法を活用し、繁殖期及び非繁殖期の行動及び採餌範囲等の把握に努める。 ウミガラスの食性、捕食者等を含むウミガラスを取り巻く生態系の構造の解明等に関する調査研究を進める。 ウミガラスの繁殖に適した環境を把握するとともに、個体群の維持に影響を及ぼすおそれのある要因及びその除去に必要な対策等に関する調査研究を進める。 	<p>① 飛来繁殖状況の把握</p> <ul style="list-style-type: none"> モニタリングカメラの設置 中央巣棚: ビデオカメラ3台設置 右側巣棚: 飛来繁殖状況を把握するためインターバルカメラを設置 巣棚入り口: ビデオカメラ1台を設置 <p>・ 巣立ちヒナ数及びつがい数把握のための代替手法の試行</p>	<p>→ 実施</p> <p>飛来数135羽、つがい数37、巣立ちヒナ数24羽を記録(資料1-2)</p> <p>→ 実施: 代替手法を試行(資料2-2)</p>	<p>① 飛来繁殖状況の把握</p> <ul style="list-style-type: none"> モニタリングカメラの設置 中央巣棚: ビデオカメラ3台設置 左側巣棚: 飛来繁殖状況を把握するためインターバルカメラを設置 巣棚入り口: ビデオカメラ1台を設置 <p>・ 代替手法によるモニタリングを試行</p>
	<p>② 生態・動態の把握</p> <ul style="list-style-type: none"> 航路センサスによる海上モニタリング継続 足環及びデータロガー装着に向けた検討 巣立ち時期にヒナの捕獲及びウミガラスの巣立ち時の生態及び調査にかかわる影響把握調査を実施 巣棚内残渣の遺伝子解析継続 	<p>→ 実施</p> <p>→ 未実施: 船舶利用不可のため</p> <p>→ 実施</p>	<p>② 生態・動態の把握</p> <ul style="list-style-type: none"> 航路センサスによる海上モニタリング継続 足環及びデータロガー装着に向けた検討 巣立ち時期にヒナの捕獲及びウミガラスの巣立ち時の生態及び調査に係る影響把握調査を実施 巣棚内残渣の遺伝子解析継続
<p>(2) 繁殖環境の維持・改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ウミガラスの自然状態での安定した存続のためには、営巣地として利用される断崖の岩棚等、ウミガラスを取り巻く生態系全体を良好な状態に保つことが必要である。このため、ウミガラスの繁殖環境の悪化や個体数減少等への効果的な対策を検討し、デコイ等による営巣地への定着の促進、営巣環境の整備、捕食者等による被害の防止及び軽減等の措置を講ずることによりウミガラスの繁殖に適した環境の維持・改善を図る。 人間によるウミガラスの繁殖地周辺への不用意な接近等、個体群の維持に悪影響を及ぼすおそれのある行為を防止するため、繁殖地周辺における監視等を行う。 ウミガラスは海域で潜水(通常20~50m程度)して採餌する特性があるため、採餌範囲における採餌状況の実態把握に努め、必要に応じて保護対策の手法について検討を進める。 	<p>① 繁殖環境の整備</p> <p>② 誘因対策</p> <ul style="list-style-type: none"> 音声装置の設置: 3月より稼働 デコイの設置 <p>③ 捕食者対策</p> <p>(ハシブトガラス)</p> <ul style="list-style-type: none"> 繁殖巣棚入り口にセンサーカメラを設置 5月上旬にシャープシューティングによる集中捕獲及び巣落としを実施 エアライフル捕獲を実施(陸域・海域) 海岸でのエアライフル捕獲を強化 <p>(オオセグロカモメ)</p> <ul style="list-style-type: none"> レーザーポインターによる追い払い <p>(ドブネズミ)</p> <ul style="list-style-type: none"> 繁殖巣棚入り口にセンサーカメラを設置 巣棚入り口にネズミ除けを設置 <p>④ 繁殖地周辺対策</p> <ul style="list-style-type: none"> 天売島の鳥獣保護区管理員による監視の実施を継続 ウミガラス誘因対策の調査時などに現地の監視を実施継続 <p>⑤ 採餌範囲における情報収集及び保護対策検討</p> <ul style="list-style-type: none"> SBF推進協議会により情報収集体制の検討 	<p>→ 実施</p> <p>→ 実施</p> <p>→ 実施: 飛来頻度の把握(資料1-2)</p> <p>→ 実施</p> <p>→ 実施: 回数減の上、実施(資料1-2)</p> <p>→ 実施</p> <p>→ 実施</p> <p>→ 実施</p> <p>→ 実施</p>	<p>① 繁殖環境の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> 中央巣棚のデコイを10個程度撤去 <p>② 誘因対策</p> <ul style="list-style-type: none"> 音声装置の設置: 3月より稼働 デコイの設置 <p>③ 捕食者対策</p> <p>(ハシブトガラス)</p> <ul style="list-style-type: none"> 繁殖巣棚入り口にセンサーカメラを設置 シャープシューティングによる集中捕獲及び巣落としを実施 エアライフル捕獲を実施(陸域・海域) ラインセンサスによる個体数調査 <p>(オオセグロカモメ)</p> <ul style="list-style-type: none"> レーザーポインターによる追い払い <p>(ドブネズミ)</p> <ul style="list-style-type: none"> 繁殖巣棚入り口にセンサーカメラを設置 巣棚入り口にネズミ除けを設置 <p>④ 繁殖地周辺対策</p> <ul style="list-style-type: none"> 天売島の鳥獣保護区管理員による監視の実施を継続 ウミガラス誘因対策の調査時などに現地の監視を実施継続 <p>⑤ 採餌範囲における情報収集及び保護対策検討</p> <ul style="list-style-type: none"> SBF推進協議会により情報収集体制の試行
<p>(3) 飼育下繁殖</p> <p>ウミガラスの繁殖は、繁殖地における野外個体群の維持・拡大を基本とするが、野外個体群の急激な減少に備え、必要に応じて域外保全の技術確立を目指した飼育下繁殖について検討する。また、傷病個体は、保護収容のうえ治療等を行い、自然下への放鳥を行う。なお、放鳥が困難な終生飼養個体は、飼育下繁殖への活用についても検討する。さらに、海外・他種も含めた野生復帰事例にかかわる情報を収集する。</p>			
<p>(4) 普及啓発</p> <ul style="list-style-type: none"> ウミガラスの保護増殖事業を実効性のあるものとするためには、各種事業活動を行う事業者、関係行政機関及び関係地域の住民を始めとする国民の理解と協力が不可欠である。このため、ウミガラスの生息状況、保護の必要性及び保護増殖事業の実施状況等に関する普及啓発を推進し、ウミガラスの保護に関する配慮と協力を呼びかける。 関係地域においてウミガラスについての理解を深めるための活動を行うこと等により、地域の自主的な保護活動の展開が図られるよう努める。 ウミガラスの生息地域(採餌範囲を含む)での経済活動との共存を図るため、関係機関、関係者の協力を得て、活動の配慮事項について取りまとめ、関係者への普及啓発に努める。 	<p>・ 報道発表等によるプッシュ型の情報発信及びHP等情報発信媒体を最大限に活用し、地元住民、関係者、羽幌町、北海道等への情報共有を進める。</p>	<p>・ 報道発表やHP、SNS等を活用して情報発信を行った。</p> <p>・ 海鳥フェスティバル等で普及啓発、関係機関への情報共有を行った。</p> <p>・ ウミガラス保護増殖リーフレットを印刷し、関係各所に配布した。</p>	<p>・ 報道発表等によるプッシュ型の情報発信及びHP等を活用し、地元住民、関係者、羽幌町、北海道等への情報共有を進める。</p> <p>・ 葛西臨海水族園と連携を行い、域外保全の促進や飼育下での情報共有を進める。</p>
<p>(5) 効果的な事業の推進のための連携の確保</p> <p>ウミガラス保護増殖事業の実施に当たっては、事業に係る環境省及び羽幌町の各行政機関、ウミガラスの生態等に関する研究機関、動物園水族館、NGO、羽幌シーバードフレンドリー推進協議会、地域住民等の関係者間の連携を図り、効果的に事業が推進されるよう努める。</p>			